

2012年3月期 第3四半期 連結決算概況

株式会社マルハニチロホールディングス

1. 連結損益計算書

(単位:億円)

	2011年12月期		増減	年間計画	進捗率
	実績	前年同期			
売上高	6,313	6,403	△ 91	8,250	77%
売上原価	5,435	5,511	△ 76		
売上総利益	878	892	△ 15		
販売費・一般管理費	707	722	△ 15		
営業利益	170	170	0	160	106%
営業外収益	27	23	4		
営業外費用	44	44	0		
経常利益	153	150	3	130	118%
特別利益	5	8	△ 3		
特別損失	54	37	17		
税金等調整前当期純利益	104	121	△ 17		
法人税等	59	44	16		
少数株主利益	7	7	1		
四半期純利益	38	70	△ 32	40	95%

国内の経済環境は、東日本大震災による厳しい状況の中、一部では回復の兆候を見せましたが、欧州の信用不安や円高の進行などにより、いまだ不透明なままとなっています。

当社グループでは、震災からの復旧はもとより、効率的な販売及び固定費削減に努めた結果、売上高は前年同期比1.4%減、経常利益は2.2%増となりました。四半期純利益は投資有価証券評価損などの発生により、前年同期比45.5%の減益となりました。

2. 連結貸借対照表

(単位: 億円)

	11年12月末	11年3月末	増減		11年12月末	11年3月末	増減
流動資産	2,818	2,389	430	負債 (うち有利子負債)	4,360 3,193	4,026 2,988	334 205
固定資産	2,271	2,354	△ 83	純資産	730	717	13
資産合計	5,089	4,743	347	負債純資産 合計	5,089	4,743	347

売上債権及びたな卸資産の増加により、総資産は前連結会計年度末から347億円増加しました。負債総額は仕入債務及び借入金増加により、334億円増加となりました(前年同期比では90億円の減少、内有利子負債は28億円の減少)。

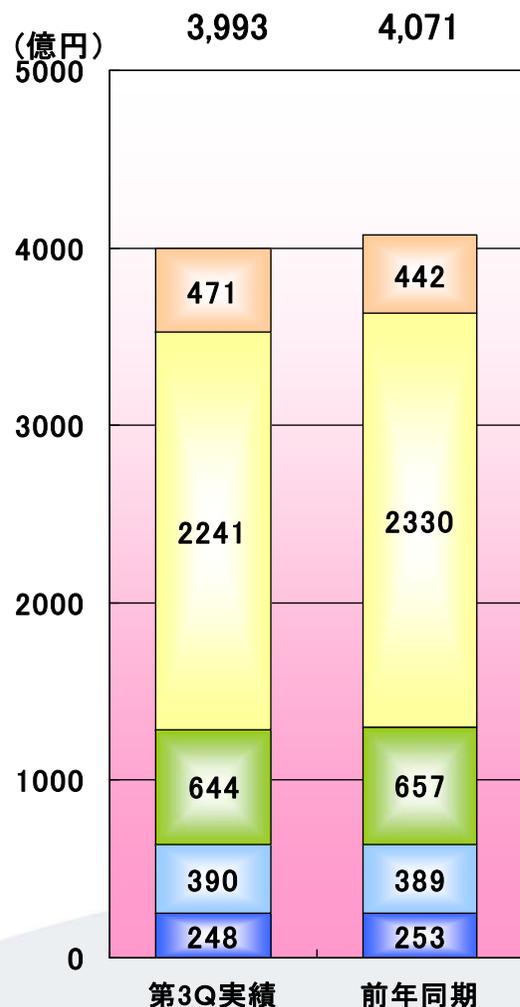
3. ユニット別実績

(単位: 億円)

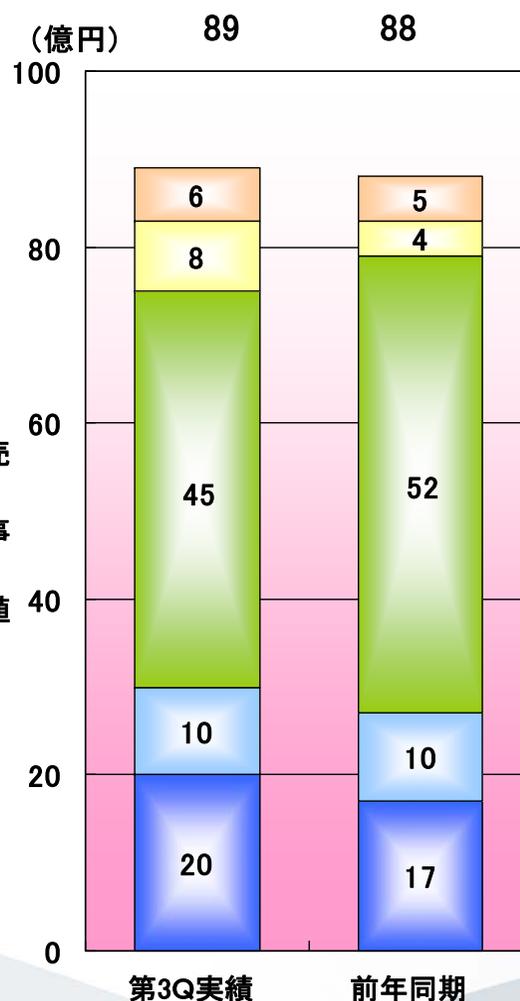
	2011年12月期									
	売上高					営業利益				
	実績	前年同期	増減	年間計画	進捗率	実績	前年同期	増減	年間計画	進捗率
漁業・養殖ユニット	248	253	△ 5	334	74%	20	17	3	14	143%
北米ユニット	390	389	1	530	74%	10	10	0	8	125%
水産商事ユニット	644	657	△ 13	818	79%	45	52	△ 7	43	105%
荷受ユニット	2,241	2,330	△ 89	2,932	76%	8	4	4	8	100%
戦略販売ユニット	471	442	28	611	77%	6	5	1	6	100%
水産セグメント計	3,993	4,071	△ 79	5,223	76%	89	88	1	79	113%
冷凍食品ユニット	909	893	15	1,195	76%	27	39	△ 12	34	79%
加工食品ユニット	574	595	△ 21	741	77%	26	28	△ 1	29	90%
畜産ユニット	357	352	5	472	76%	7	12	△ 5	9	78%
化成品ユニット	102	104	△ 2	136	75%	12	10	2	12	100%
アジア・オセアニアユニット	214	206	8	276	78%	13	6	7	11	118%
食品セグメント計	2,156	2,150	6	2,819	76%	86	95	△ 9	94	91%
保管・物流セグメント計	114	109	5	147	78%	12	7	5	14	86%
その他セグメント計	51	74	△ 23	61	84%	9	8	2	10	90%
全社セグメント計						△ 25	△ 27	2	△ 37	68%
合計	6,313	6,404	△ 91	8,250	77%	170	170	0	160	106%

3-1. 水産セグメント

売上高



営業利益



トピックス

1. 漁業・養殖ユニット

漁労は、カツオ漁が不振ながら魚価上昇。他の海外漁業好調で売上・営業利益ともに微増
 養殖は、カンパチの販売減による減収をマグロの魚価上昇がカバーし、減収増益

2. 北米ユニット

ズワイガニの増枠やスケトウダラの漁獲枠大幅増により増収なるも、利益は前期並

3. 水産商事ユニット

鮭鱒の市況低迷、エビの買付価格上昇、海外エビ養殖の不振等により、減益

4. 荷受ユニット

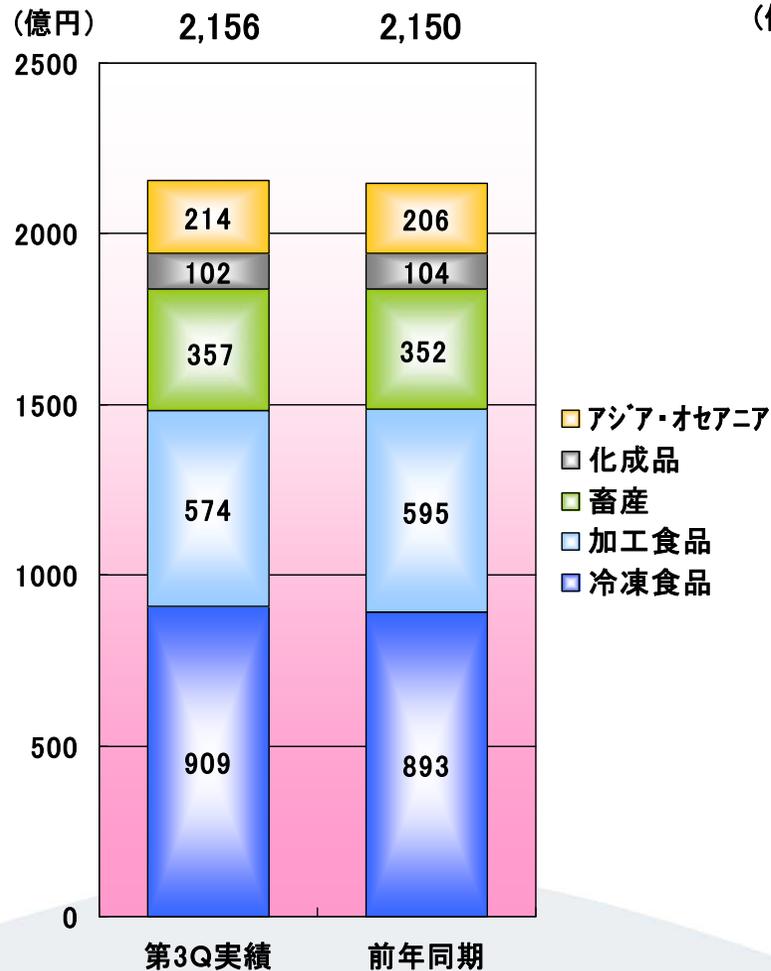
販売苦戦の中経費削減に努め、減収ながらも増益

5. 戦略販売ユニット

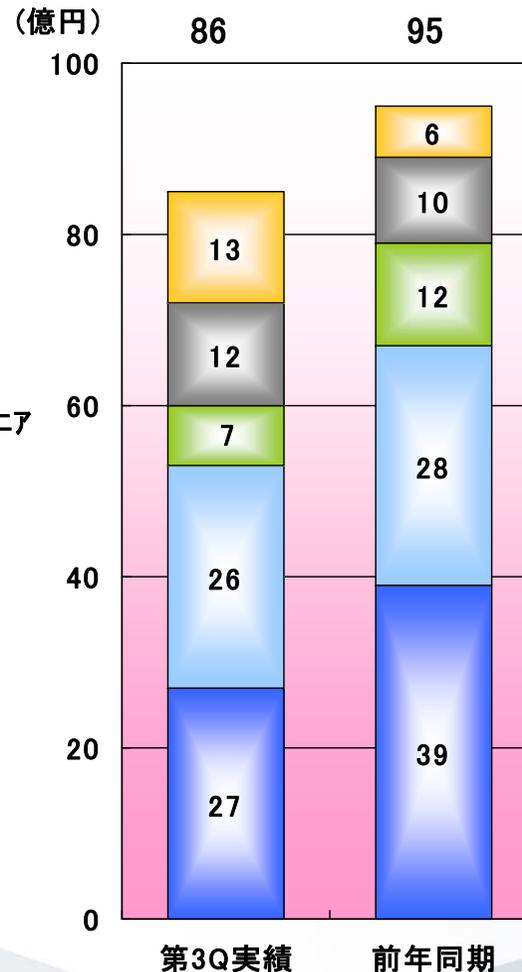
量販店や外食への引き合いが強く、販売が好調に推移し、増収増益

3-2. 食品セグメント

売上高



営業利益



トピックス

1. 冷凍食品ユニット

米飯や麺製品の販売好調により増収ながら、生産拠点の被災により、減益

2. 加工食品ユニット

缶詰の販売が好調だったものの、ペットフードやデザートのコスト上昇及び価格競争が影響し、減益

3. 畜産ユニット

営業力強化で増収も、原価上昇と新規生産品の立ち上げ遅れなどにより減益

4. 化成品ユニット

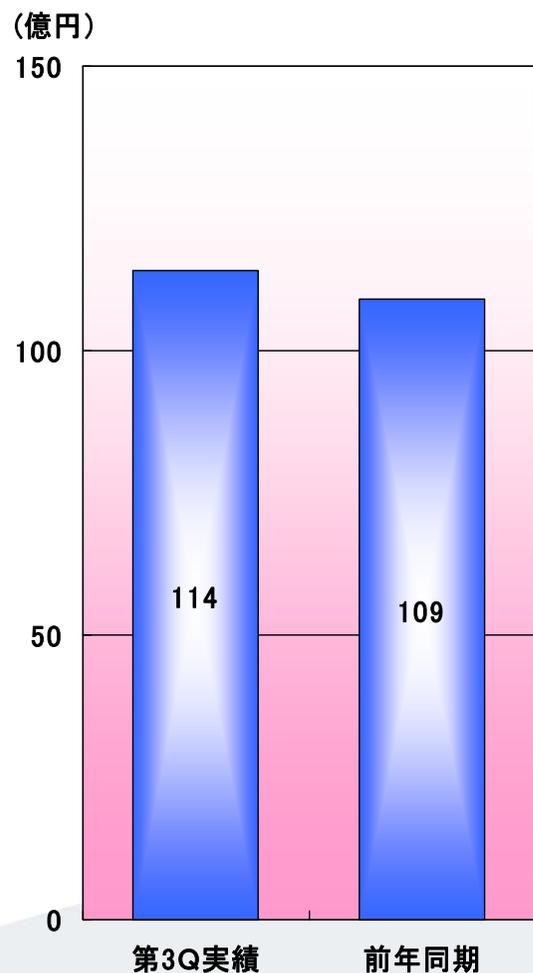
バイオ関連製品は震災による需要増で増収増益となるも、調味料・フリーズドライ製品の工場被災により、全体では減収増益

5. アジア・オセアニアユニット

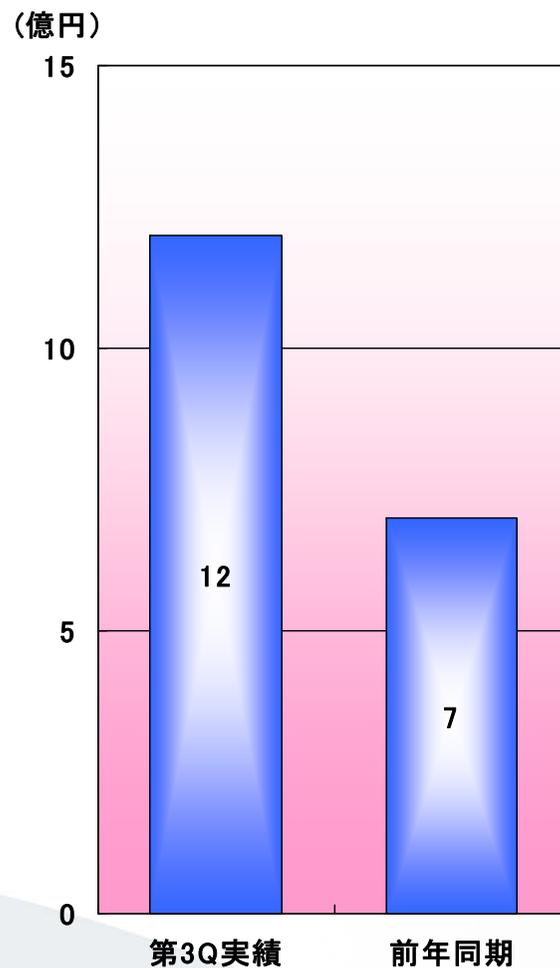
欧州向けの販売が減収となった中、日本・米国・豪州への好調な販売が貢献し、増収増益

3-3. 保管・物流セグメント

売上高



営業利益



トピックス

在庫数量が前年より高い水準で推移し、
増収増益

世界に美味しいしあわせを

当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。また、本資料は著作権やその他本書類にかかる一切の権利は株式会社マルハニチロホールディングスに属します。

MARUHA NICHIRO